



## 中国の産学連携モデルの紹介

北京同達信恒知識産権代理有限公司 弁理士  
早稲田大学国際情報通信研究科 客員研究員

劉 松

技術革新の促進は、中国の経済発展の必然的な方向になってきた。科学技術革新を強化する重要な方法の一つは産学連携である。2006 年年始開催された全国科学技術会議では、『国家中長期科学技術開発計画 (2006 ~ 2020 年)』が発行され、"産学連携の技術革新は国家イノベーション体系の突破口になる"と述べた。

近年、中国の大学と産業の連携は、様々なモデルを形成し、急速に発展してきた。ここでは、その中で代表的な 3 つを紹介する。

### 1. 大学サイエンスパーク

大学と地域のリソースを組合せ、ワンパーク複数校のモデルである大学サイエンスパークは、学校だけではなく、関連する研究開発プラットフォーム、技術インキュベータや産業化基地も設立し、大学の研究開発と技術転換を促進する。例えば、深センバーチャル大学パークは深セン市のハイテク発展のニーズに応じ、清華大学、北京大学、香港大学等の 53 の有名大学を招致して設立された大学サイエンスパークである。設立十周年の 2009 年 11 月まで、育成された人材は 108,932 名、625 のハイテク企業を設立し、74 の国家科学技術プロジェクトに取り込み、241 件の特許を取得した。ハイレベルの人材育成、大学研究成果産業化の基地となった。

### 2. 政府+大学+企業の聯合イノベーションプラットフォーム

このモデルは政府主導の産学連携であり、政府、大学・研究機関、地元企業三者協力して共同研究開発拠点を確立する。例えば、広東省政府は 2006 年から全国 50 以上の大学と協力し、地元企業と数多くの共同研究拠点を設立した。

### 3. プロジェクト協力モデル

現在最も発展された産学連携モデルである。大学や研究所が企業から科学研究とエンジニアリングプロジェクトの事業を受託し、設備改良、技術革新、難関克服などの課題に取り込む。例えば、上海交通大学と上海宝山鋼鉄グループの協力、同済大学と上海地下鉄会社の協力はプロジェクト協力モデルの例である。

中国の産学連携は今後も更に高いレベルと広い範囲で展開されることを期待できる。

## 中国大学与产业合作的模式介绍

北京同達信恒知識產權代理有限公司 弁理士

早稲田大学国際情報通信研究科 客員研究員

劉 松

科技创新是中国经济发展的必然趋势，大学与产业的合作是提升科技创新能力的重要方式之一，2006 年初中国召开全国科学技术大会，并发布《国家中长期科学和技术发展规划纲要（2006～2020 年）》。其中指出，产学研结合的技术创新体系将作为国家创新体系建设的突破口。

近年来，中国大学与产业的结合发展非常迅速，形成了多种模式，本文将简单介绍其中比较有代表性的三种。

### 1. 大学科技园

将高校和地方的资源相结合，建立多校一园的大学科技园模式。同时建立相关的研究开发平台，技术孵化平台和技术产业化基地，促进高校研发和成果转化。例如深圳虚拟大学园是深圳市根据高新技术发展需求，在引进清华大学，北京大学，香港大学等 53 所著名高校之后建立的大学科技园，截至 2009 年 11 月，利用十年的时间培养人才 108932 人次，累计孵化科技企业 625 家，承担国家级科技项目 74 个，获得专利 241 项。形成了高层次人才培养、大学成果转化和产业化基地。

### 2. 政府+大学+企业联合创新平台

这是一种由地方政府来主导的产学研合作模式。政府，高校或科研院所，地方企业三者合作来建立共同研发基地或研究院。例如广东省政府自 2006 年以来与全国 50 多家大学建立合作，成立了多家共同研究院。

### 3. 项目合作模式

这是目前最多的产学研合作模式，主要是指大学，研究所承接企业委托的科研和工程项目，从设备改造，技术创新，难题攻关等角度进行产学研合作。比如上海宝山钢铁集团与上海交通大学的合作，上海地铁公司与同济大学的合作等等。

今后中国的产学研合作还将会在更高层次，更大范围，更宽领域进行开展。